



保健看護学の未来を担う、高度臨床実践者・教育者・研究者を育成します。

学部での学びをさらに発展させます

教育課程	博士前期課程保健看護学専攻		博士後期課程 保健看護学専攻
	論文コース	がん看護専門看護師 コース	
教育理念	<p>広い視野と高邁な倫理観に立ち、人間の尊厳を重視する保健看護学の教育・研究を進め、保健・介護・福祉に対するニーズに先駆的に対応し、健康に関係する様々な分野相互の連携の重要性が理解できる資質の高い保健看護職者と健康関連専門職者を育成する。</p> <p>また、本学保健看護学部の使命である「地域に根ざした保健看護学の考究」の推進者として、地域の人々の健康の保持増進、疾病・障害に伴う諸問題を含め、倫理的・科学的な研究に対する意欲をもち、自律して質の高い計画を立案・実行し、社会のニーズに柔軟かつ豊かに対処することができる健康づくりに関わる専門職業人として能力の向上をめざす。</p>		<p>広い視野と高邁な倫理観に立って、人間の尊厳を重視する保健看護学の教育・研究を進め、保健・医療に対するニーズに先駆的に対応し、健康に関係する様々な分野における健康づくりに寄与できる教育・研究者を育成し、地域における人々の健康に貢献する。</p>
アドミッションポリシー	<ol style="list-style-type: none"> 保健看護学分野における専門性を高めるための研究に意欲をもつ人 保健看護学以外の領域で学んだ知識と技能を保健看護学の研究へ応用、発展しようとする人 本課程で学ぶ知識と技能を医療や医療以外の領域へ応用、発展しようとする人 地域医療への貢献を研究的視点にもつ人 		<ol style="list-style-type: none"> 保健看護学に関する高い関心と研究への強い意欲をもつ人 保健看護学の発展と社会福祉の向上に熱意をもつ人 保健看護学への貢献を研究的視点にもつ人 保健看護学の専門職業人として、高度な専門知識の更新、リカレント教育に取り組もうとしている人
専攻領域	<input type="radio"/> 健康科学領域 <input type="radio"/> 基盤看護学領域 <input type="radio"/> 生活・地域保健学領域	<input type="radio"/> 基盤看護学領域がん看護学	<input type="radio"/> 生涯保健看護学領域 <input type="radio"/> 地域保健看護学領域
選抜方法	<input type="radio"/> 一般選抜 <input type="radio"/> 社会人選抜	<input type="radio"/> 一般選抜 <input type="radio"/> 社会人選抜	<input type="radio"/> 一般選抜 <input type="radio"/> 社会人選抜
入学試験	一般選抜、社会人選抜ともに英語、専門科目、面接を行う		
入学定員	12名		3名
修業年限 ^(*)	2年	3年 (長期履修制度利用)	3年
取得できる学位・資格	修士 (保健看護学)	修士 (保健看護学) がん看護専門看護師 認定審査受験資格	博士 (保健看護学)
学生支援	日本学生支援機構による奨学金制度 (社会人は申請することができません。)		

(*) 長期履修制度あり



博士前期課程（修士課程）

健康科学領域

身体的、精神的、社会的側面から「健康」をとらえ、関連する諸科学において学際的に探求する領域

専攻分野

- 健康増進学
- 運動器疼痛リサーチ & マネジメント学
- 発育・育成学
- メンタルヘルス学
- 社会予防疫学
- 対人援助コミュニケーション学

基盤看護学領域

看護学の専門性に対応した看護学各分野における実践者、研究者、教育者の育成を目指す領域

専攻分野

- 基礎看護学
- 高齢者看護学
- 慢性看護学
- 急性看護学
- がん看護学

生活・地域保健学領域

家庭、地域、職域等、人々の生活の場における健康づくりのプロフェッショナルを育成する領域

専攻分野

- 母性保健学
- 小児保健学
- 地域看護学
- 在宅ケア看護学
- 環境保健学

授業科目

■ 共通科目（必修）

論文コース、がん看護専門看護師コース共通

- ・保健看護学研究法
- ・英語文献講読
- ・保健看護情報統計学

論文コース

- ・特別研究

がん看護専門看護師コース（必修）

- ・臨床薬理学・フィジカルアセスメント
- ・病態生理学・課題研究

■ 共通科目（選択）

論文コース、がん看護専門看護師コース共通

- ・ヘルスケアエシックス・保健看護学概論
- ・健康マネジメント政策論・看護教育論・看護管理論
- ・看護理論・コンサルテーション論・健康測定評価論
- ・健康栄養学・家族看護学・医療と法

論文コース

- ・臨床薬理学・フィジカルアセスメント・病態生理学

■ 健康科学領域

- ・健康増進学特論
- ・健康増進学演習
- ・運動器疼痛リサーチ & マネジメント学特論
- ・運動器疼痛リサーチ & マネジメント学演習
- ・発育・育成学特論
- ・発育・育成学演習
- ・メンタルヘルス学特論
- ・メンタルヘルス学演習
- ・社会予防疫学特論
- ・社会予防疫学演習
- ・対人援助コミュニケーション学特論
- ・対人援助コミュニケーション学演習

■ 基盤看護学領域

- ・基礎看護学特論
- ・基礎看護学演習
- ・高齢者看護学特論
- ・高齢者看護学演習
- ・慢性看護学特論
- ・慢性看護学演習
- ・急性看護学特論
- ・急性看護学演習
- ・がん看護学特論
- ・がん看護学演習
- ・がん看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ*
- ・がん看護学実習*
- ・がんリハビリテーション看護A・B*
- ・緩和ケアA・B*

*がん看護専門看護師コース必修

■ 生活・地域保健学領域

- ・母性保健学特論
- ・母性保健学演習
- ・小児保健学特論
- ・小児保健学演習
- ・地域看護学特論
- ・地域看護学演習
- ・在宅ケア看護学特論
- ・在宅ケア看護学演習
- ・環境保健学特論
- ・環境保健学演習

博士後期課程（博士課程）

生涯保健看護学領域

- 母子保健看護学
- 成人期保健看護学
- 高齢期保健看護学

地域保健看護学領域

- 地域保健看護学

授業科目

■ 共通科目（必修）

- ・保健看護学研究法
- ・後期特別研究

■ 共通科目（選択）

- ・健康管理論
- ・生活支援看護学

■ 生涯保健看護学領域

- ・母子保健看護学特論
- ・成人期保健看護学特論
- ・高齢期保健看護学特論

■ 地域保健看護学領域

- ・地域保健看護学特論



大学院生メッセージ



辻本 裕子さん（博士前期課程2年生）

行政保健師として勤めて25年、変わりゆく社会の中で多様化する健康課題に向き合ってきました。その中で、求められる役割に十分応えられないもどかしさを感じ、課題を分析し、施策につなげる力を高めたいと思い、大学院進学を決意しました。仕事との両立は簡単ではありませんが、年齢も分野も異なる仲間との学びは刺激的で、日々の実践を理論と結びつけながら深く考える時間はとても有意義です。一歩踏み出したことで、新しい視点や可能性が広がりました。

迷っている方には、ぜひその一歩を大切にしてほしいと思います。

野下 未来さん（博士前期課程2年生）

私は、在宅看護に魅力を感じ、病院勤務を経て訪問看護の現場で勤務してきました。生活の場でその人らしさを支える看護の奥深さと魅力を学生に伝えたいとの思いから、看護教育に携わるようになりました。

学生と向き合う中で、共に学び成長し続ける姿勢の大切さ、そして自らも学び続けることの重要性を改めて実感しました。一方で、実習指導の難しさに直面し、「どのような関わりが学びを深めるのか」と問い続けるようになりました。経験にとどまらず理論や研究の視点から看護教育を捉え直したいと考え、進学を決意しました。仕事と学業の両立は容易ではありませんが、多様な専門職の方々と学び合う講義は大きな刺激となり、新たな視点を獲得の機会となっています。本当に大学院に来てよかったと実感しており、この学びを今後の実践と教育へ還元していきたいと考えています。



岡村 凌佑さん（博士後期課程2年生）

私は、臨床現場で働く中で、少しでも疑問を持ち、解決できる力をもって患者さんに還元できるような看護師になりたいという思いから看護師4年目に博士前期課程に進学しました。博士前期課程の2年間では、胃切除術後の安定期で外来通院されている患者さんを対象に研究をさせていただきました。この研究で、短い在院日数の中で退院後をよりイメージして病棟看護師としてできることを深く考えることができるようになったと思っています。

そして博士前期課程での研究をより深く行いたいと思いから看護師9年目で博士後期課程に進学しました。博士後期課程では、講義は博士前期課程ほど多くはありませんが、その分研究に費やす時間が多くなるということです。大学院に進学し、研究を通してたくさんの人と出会うことができ、臨床現場だけでは学べなかったことをたくさん学ぶことができます。また、現場で働きながらも学べる環境であることも大きな魅力の1つです。

博士後期課程での研究も始まったばかりですが、少しでもこの学びを活かすことができるよう頑張っていきたいと思っています。